

市では、東日本大震災被災地の復興支援の一環として、今年度までに延べ7人の職員派遣を被災市町村に行ってきました。

最後の派遣となる今年度は、宮城県東松島市に山内善瑛主事を一年間の任期で派遣しています。

今回はそんな山内主事に東松島市の現在や仕事内容についてインタビューしました。



山内善瑛主事
支援期間 平成29年4月1日～平成30年3月31日
支援場所 宮城県東松島市役所

現在の所属と仕事内容を教えてください。

弥富市では入庁してから4年間、危機管理課で防災担当でしたが、東松島市でも防災業務に携わっています。主に防災備蓄品の管理、原子力災害時の広域避難、地域防災計画の修正を行っております。

印象に残っていることや事業の感想などありますか。

震災時、備蓄品の絶対量や受け入れ体制が十分でなかった被災自治体がほとんどだったため、職員は何日も食べ物や水を口にできず災害対応に追われ、深夜でも関係なく物資が運ばれて来ても、荷捌きで

さる人員や受け入れるスペースがないなど、大変苦労されたそうです。同じ境遇に合わないためにも東松島市では、震災後、防災備蓄品の充実を図るため、市内に25箇所の防災倉庫を建設し、その内の1箇所を実効性のある防災倉庫とし、そこを拠点に市内の避難所などへ配布できる体制を整えました。この倉庫は国内外問わず、数多くの視察団を受け入れております。

また、震災当時、全国から支援いただいた物資を無駄にしないため、倉庫内で適切に管理しております。この恩をお返ししたいという想いもあり、熊本地震の際、被災地へ物資を送ったそうです。備蓄数量については、予算や管理の面でも徐々に減らし、これからは自助・共助による備蓄を推進していくとのことでした。



被災地に実際に赴任し感じたことや現在の様子などを教えてください。

東日本大震災から5年が経過し、当時の写真と比べると、まち全体は元の姿を取り戻しつつあります。が、被災して身内や友人などを亡くされた方のお話を聞くと、ここまでに辿り着くまでの悲しみや苦労は計り知れず、まだ心の復興は終わっていないように感じます。少しでも住民の方の気持ちに寄り添い、力になれるよう仕事だけでなく、地域行事に参加するなど多方面から支援していきたいと思っています。



思いがけない感動に出会えるまち
～青の国 東松島～

この派遣を通じて弥富市に戻った時に伝えたいこと、弥富市に必要なと感じたことなどがありますか。

この出来事を風化させず、後世に伝えていくことが、これから被災地に求められることだと思います。

弥富市においても南海トラフ巨大地震の発生が危惧されており、震災当時、避難所運営が充実していたところは、すべて住民の方が主体で動いてくれた避難所だったそうです。震災で、行政も被災し、行政の力には限界があるということが証明されました。「自分の命は自分で守る」、「自分の住んでいるまちはみんなで守る」といった自助・共助の意識をもつ大切さを多くの方に知っていただき、いつ起こるかわからない自然災害の恐ろしさを身近なものと感じていただきたいと思います。

最後に、東松島市の魅力を教えてください。

東松島市は、仙台市の北東にあり東は石巻市、南は太平洋に面しています。山もあり海もある自然に囲まれたまちです。市の南に位置する宮戸という地区は島になっ



弥富市・東松島市災害時相互応援に関する協定

(平成29年8月締結)

今回の派遣をきっかけに宮城県東松島市と防災協定が締結されました。これからは県外の市町村と応援協定を結ぶことで激甚な災害に備えることにつながっていきます。

平成29年度第3回弥富市防災ワークショップ 参加者募集

昨年の10月末から11月にかけて、災害時の配慮が必要な方の支援などについて第1回、第2回の弥富市防災ワークショップを開催しました。第3回ではこれまでの各学区のワークショップをうけ、まとめを行います。第1回、第2回に参加されていない方でも、ぜひ、ご参加ください。

第3回ワークショップ(全地区対象)

- ▼とき 2月1日(木) 午後7時30分～9時
- ▼ところ 十四山スポーツセンター 第2アリーナ
- ▼内容(予定)

第2回ワークショップの報告
今後の弥富市の防災について
ワークショップについての講評

▼申込方法

市ホームページから申込用紙を印刷していただき、市役所危機管理課(十四山支所2階)まで持参またはFAXしてください。

▼申込期限 1月26日(金)

申・問 市役所危機管理課(内線365) FAX 52-3276

